

# 平成28年度柏原市立歴史資料館等運営協議会

## 会 議 録

日 時	平成28年5月18日(水)
	午後2時～4時
場 所	柏原市立歴史資料館研修室

## 会議出席者

### 委員

塚口義信（会長）、綿貫友子（副会長）、荻田耕司、水元誠致、  
岡野有幸、中野 武

### 事務局

尾野晋一（教育部長）、桑野一幸（文化財課課長）、安村俊史（文  
化財課参事兼歴史資料館館長）、山根航（文化財課主査）、川元  
奈々（歴史資料館学芸員）

記録：安村俊史

1. 開会（14時）

進行・安村

2. 尾野教育部長あいさつ

3. 委嘱状交付

4. 委員紹介

5. 事務局紹介

6. 議事

①会長・副会長選出

自薦・他薦がなかったため、事務局案として塚口委員を会長、綿貫委員を副会長とする案を提出。全員一致で承認される。

〔以下、塚口会長による議事進行〕

②平成27年度事業報告

（1）歴史資料館関係 安村報告

（2）横穴管理運営関係 桑野報告

〔別添資料参照〕

【質疑】

○中学・高校の利用について

委員：小学校の利用は多いようであるが、中学・高等学校の利用状況はどうか。

事務局：先生の勧めなどで個人的に見学に来ている生徒・学生もいるようであるが、学校として中学・高校・大学生の利用は少ない。

○公共施設のあり方について

委員：柏原市では、公共施設のあり方について総点検し、見直しを進める方針であるようだが、今後の資料館のあり方について何か動きはあるのか。市民アンケートにおいて、文化財に対する市民の満足度は高いが、重要度は低くなっている。その点も踏まえて、資料館の今後はどうなるのか。

事務局：現在は、施設の管理状況や利用状況の調査が実施されている段階である。

事務局：施設の見直しを進めているのは事実である。資料館だけでなく、各施設の必要性を市民に訴えていくことが必要だと考えている。

委員：資料館は災害時の避難施設にもなっており、施設の設備更新は欠かせないと思う。今後、計画的に進めてもらいたい。

事務局：他の施設とともに、資料館の設備更新も必要なものは図っていきたいと考えているので、ご理解願いたい。

#### ○利用状況について

委員：資料館は、実際には何人ぐらいで運営しているのか。

事務局：職員は文化財課と兼務であり、明確な区分はむずかしいが、学芸職では館長を含めて正職員2名、嘱託1名が中心に運営にあっている。

委員：少ない人員で2万人近い入館者があるというのは、すばらしい実績だと思う。府内の他の施設と比較して、この入館者数はどうなのか。

事務局：府内の市町村立の博物館・資料館で、入館者数が1万人を超えているところは少ない。当館の2万人近い入館者数は、誇れる数字だと思う。

委員：これだけのスタッフで年4回の企画展を実施し、講演会等も精力的に実施していることを、高く評価できる。講演会の参加者も非常に多く、とりわけ「大坂夏の陣」の講演会は大盛況であり、参加者も非常に多かったようである。今後も、テーマの選択等を考えながら、これらの事業を進めてもらいたい。

#### ○中学・高等学校への働きかけについて

委員：中学・高等学校の来館者増加の対策は、何か考えているのか。学校の宿題等で来館させることなどもできるかもしれない。それが、歴史への関心をもつきっかけになるのではないか。来館したという証明になるような、たとえばスタンプなどはあるのか。

事務局：スタンプはあるので、ご利用いただきたい。また、資料の貸し出しや、出前授業などでこちらから学校へ出向くことも可能なので利用いただきたいと思う。何かきっかけがあれば、子どもたちは反応を示してくれるのではないだろうか。そのような取り組みを進めていきたいと考えているので、委員の方々にもご協力いただきたい。

#### ○地元への周知について

委員：地元の方々でも資料館を知らない、あるいは来館したことがない方もいる。資料館の取り上げるテーマが狭いためではないか。たとえば生誕150年を迎える正岡子規の企画展などを実施してはどうか。また、個人所蔵資料の当館への寄託等はあるのか。

事務局：地元との交流は、自治会や子供会との交流などを通じて資料館案内などを試みている。さまざまなテーマを取り上げることは重要だと考えるが、柏原市と関わりのないテーマを取り上げるのは、当館の目的から考えてどうかと思う。個人所蔵資料の寄託は、柏原市に関連する資料に限らせていただいております、ほとんどが地域に伝わった古文書である。個別の事例については、その都度考えていくことになると思う。

#### ○市民歴史クラブの活動について

委員：職員が少ないゆえに機動的に事業を進められている面もあるのかもしれない。また、市民歴史クラブの作成したジオラマやスライドショーは、展示の幅を広げることに大いに役立っている。職員との関係はどのようになっているのか。

事務局：少人数なので臨機応変に対応できる面は確かにあると思う。そして、市民歴史ク

ラブの活躍には感謝している。期待以上の活動であり、他施設での展示を自分たちで考えるなど、活動の幅も広がっている。

#### ○大学生の来館について

委員：大学でも、学生が来館する機会をできるだけ設けるようにしている。今後もいろいろ協力していきたいと思う。

事務局：大学だけでなく中学・高等学校も含めて、来館増加については、今後も取り組んでいきたいと考えている。

#### ③平成 28 年度事業計画

(1) 歴史資料館関係 安村報告

(2) 横穴管理運営関係 桑野報告

[別添資料]

#### 【質疑】

#### ○市史の更新と竹原井頓宮の企画展について

委員：市史の記載内容で訂正すべき点が増えている。企画展の予定にあがっている竹原井頓宮もその一つであり、その成果に期待している。

事務局：新しい市史の刊行は、スタッフ、財政などの問題でむずかしいところがある。市史にかわる何らかの方法は考えていくべきであろう。企画展の開催も、その一つと考えている。

委員：市史については、何らかの方法で更新することを期待している。八尾市が精力的に進めているが、そこまでできなくても、簡単なものでもいいので考えてもらいたい。

委員：王寺町がわかりやすいコンパクトな冊子を刊行している。こういうものならば、柏原市でも刊行できるのではないだろうか。

#### ○学校教育との関わりについて

委員：資料館は研究の場であるということも重要であると思う。学校教育との関わりについて、学校からの見学や出前授業、教員の初任者研修などで資料館には協力していただいているが、まだまだ教員が資料館を利用しようとする意欲に欠けているところがある。教員がもっと関心をもてるように、社会科部会への働きかけなどで取り組んでいくことが必要であろう。また、駅構内での小さい展示などで、市民が資料館への興味・関心をもてるような工夫を考えられないか。

事務局：さまざまな機会をとらえて学校の先生と資料館との距離を縮めていく方法を考えていきたい。駅での展示はむずかしい面があるが、出先での展示などは検討してみたい。

#### ○横穴の保存状況について

委員：横穴内部の照明を消しているということであるが、それに伴う保存への影響などはどうか。

事務局：照明に伴う発光・発熱などによる影響を確認するため、昨年度から消灯して調査

している。照明の影響があまりないようならば、また点灯することも考えたい。今後も、いろいろな方法で、適切な保存方法を考えていきたい。

委員：昨年のも雨による影響等はみられなかったか。

事務局：も雨による影響はなかったが、自然風化による一部の損壊がみられ、ブルーシートをかけているところもある。見苦しいが、修復がむずかしく、現状保存のためやむを得ないと考えている。

#### ○青谷の石仏群について

委員：青谷の石仏は、非常にいいものがある。地元で、石仏について祭りなどは行われているのか。もしあるならば、記録をとり、資料館での展示などにも反映していけないか。

事務局：地蔵盆などは行っていると思う。石仏の調査とともに、その方面の調査も行っていきたい。

委員：地元で大切に保存されているようだが、盗難の心配もある。その点にも注意を払ってもらいたい。

#### ○柏陽庵の利用状況について

委員：柏陽庵の維持管理に伴う予算措置はどうなっているのか。

事務局：柏陽庵の正確な収支を準備していないが、年間使用料収入は約40万円である。維持管理については、それほど経費は支出していない。柏陽庵については、予算の問題、利用者が限られることなどから、その存続については市の検討課題となっている。

## 7. 閉会

(終了 15 時 50 分)